

プレスリリース

メディア各位

厚生労働記者会 厚生日比谷クラブ
加盟社各位

2020年11月25日

公益財団法人日本心臓血管研究振興会附属
榊原記念病院地域かかりつけ医、在宅医、周辺多職種を対象とした、
高齢心不全患者診療ガイドブックが完成
～多職種・多面的・包括的な診療・ケアのために～

厚生労働科学研究費補助金循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業「地域におけるかかりつけ医等を中心とした心不全の診療提供体制構築のための研究」（研究代表者 磯部 光章 以下 本研究）では、関連9学会・団体の協力の下で高齢心不全患者を中心としたケア全般に関する「地域のかかりつけ医と多職種のための心不全診療ガイドブック」（以下 本資料）を作成しました。標準的な診療の基準を示した、心不全に関わる従来の各種ガイドラインとは異なり、診療所や在宅における診療・ケア内容を中心とし、また、かかりつけ医およびその周辺の多職種が現場で参照する視点からまとめられています。患者の生活や療養環境改善も視野においています。心不全治療において今後ますます重要になる、地域における診療、多職種による、多面的、包括的な診療・ケアで活用できる実用的なガイドブックです。



■ 本資料の作成理由と背景

わが国においては高齢者を中心に心不全（注釈1）の増加傾向が顕著です（注釈2）。心不全の病像も変化し、診療目標・診療手段・診療場所や医療提供者も従来とは様変わりしようとしています。高齢心不全患者の診療に必要なことは、健康寿命（注釈3）を延伸し、再入院を防止し、生活の質を向上させることです。そのために、患者の療養環境も重視した地域包括ケアの推進と多職種による多面的で包括的な診療・ケアが求められています。今後心不全診療の主体となるのは、地域の医療者であり、一般内科を専門とするかかりつけ医、在宅医に加え、地域で患者を支える多数の多職種が連携して質の高い診療・ケアを提供してゆくことが、ますます重要になってくると思われます。

折しも循環器病対策基本法に基づいて、本年10月27日に循環器病対策基本計画が閣議決定されました。多様な目的・計画が包含された計画ですが、高齢者を中心とした心不全患者の診療提供体制の構築はその大きな柱の一つです。

ガイドラインとしては、これまでに「急性・慢性心不全診療ガイドライン（2017年改訂版）」（日本循環器学会）や「高齢心不全患者の治療に関するステートメント」（日本心不全学会）が発表されていますが、本資料は、これらの標準的な診療の基準を示したガイドラインとは異なり、かかりつけ医およびその周辺の多職種が現場で参照するという視点で、既存の指針を参考にしながら内容に齟齬がないように作成したものです。エキスパートおよび臨床現場で活躍される各職種のコンセンサスを得て執筆し、

関連学会・団体の確認、多数のかかりつけ医と多職種によるアンケート調査を行い、パブリックコメントを募ったのちに完成いたしました。

■ 本資料の内容・意義

本資料は、下記項目からなる 84 頁のオンライン出版物です。

- ・1 章「かかりつけ医による心不全診療」
- ・2 章「心不全診療に関わる多職種の役割」
- ・3 章「心不全患者の緩和ケアと終末期ケア」
- ・4 章「地域で行うこれからの心不全診療」

一般のかかりつけ医を中心に、循環器専門医、歯科医、看護師、療法士、管理栄養士、薬剤師、医療ソーシャルワーカーなどの多職種を念頭に執筆された実用的なガイドブックです。「心不全の運動療法」として具体的な運動方法が動画で紹介されるなど、患者指導に使いやすい内容です。地域包括ケアの中で、心不全患者の地域連携を今後どのように進めていくかについての提案も行っています。

日本医師会、日本在宅医療連合学会、日本循環器学会、日本循環器看護学会、日本心臓病学会、日本心臓リハビリテーション学会、日本心不全学会、日本プライマリ・ケア連合学会、日本老年医学会の協力のもとで作成されました。

特に医療サイドの視点だけでなく、患者の生活、療養環境、家族への配慮、福祉サービスにも重点を置き、また終末期医療に関連したアドバンス・ケア・プランニングや緩和ケアへの具体的な対処法、心不全診療の地域連携の実例も紹介しています。

■ 本資料の入手方法

以下の URL から資料をダウンロードできます。

- ・ウェブサイト「地域におけるかかりつけ医等を中心とした心不全の診療提供体制構築のための研究」

<http://plaza.umin.ac.jp/isobegroup/>

TOP ページから、心不全診療ガイドブックダウンロードページへ移動してください。移動時に簡単なアンケートがあります。



■ 本研究班について

本研究班は、厚生労働科学研究費補助金を受けて 2018 年に立ち上がりました。代表は、公益財団法人 日本心臓血管振興会附属 榊原記念病院の磯部 光章 院長が務めています。64 名の研究者・協力者で構成され、専門医、実地医家、看護師、療法士、管理栄養士、社会福祉士などの多職種が参加して研究を行っています。また上記の関連の 9 団体・学会から助言・協力を頂いています。

本研究班では、今後激増が予想される高齢者を中心とした心不全患者への診療提供体制の構築を目的とした研究を行っています。また、本資料の作成に加えて、患者・市民教育開発に必要な動画や介護サービスに関するパンフレットの作成を行っています。そのほか、心不全に関連したガイドラインの適切性基準の開発、地域連携に必要な医療の質評価に必要な指標の開発についても研究を進めています。活動や成果の詳細は HP で紹介してあります。3 年間の研究成果は 2021 年 3 月 9 日に開催する公開シンポジウムで発表を行う予定です。

■ 注釈

● 注釈 1 心不全

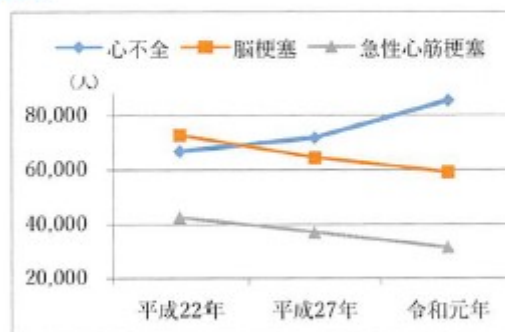
「心不全とは、心臓が悪いために息切れやむくみが起こり、だんだん悪くなり、生命を縮める病気です」
「医学の専門用語としては、“病気”ではありませんが、心臓が悪いことを総合的に表現する言葉として使用されています」（引用 日本循環器学会／日本心不全学会『心不全の定義』） ※さらに詳細な説明も引用元に書かれています。

<http://www.asas.or.jp/jhfs/pdf/topics20171101.pdf>

● 注釈 2 心不全患者の増加傾向について

日本の令和元年循環器系疾患による死因第 1 位は心不全です。脳梗塞や急性心筋梗塞による死亡者数が減少しているのとは対照的に、心不全の死亡者数は増加傾向にあります。（左のグラフは厚生労働省『人口動態統計』から集計）

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/81-1a.html>



● 注釈 3 健康寿命

健康寿命とは、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のことです。

（引用 健康寿命の延伸等を図るための脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法）

■ 榊原記念病院

病院名	公益財団法人 日本心臓血管研究振興会 附属 榊原記念病院		
所在地・電話番号	〒183-0003 東京都府中市朝日町3-16-1 / 042-314-3111		
病院長	磯部 光章	病床数	309床



<本件のお問い合わせ先>

公益財団法人 日本心臓血管研究振興会附属 榊原記念病院経営企画部 林裕幸
〒183-0003 東京都府中市朝日町 3-16-1 TEL: 042-314-3111(代表)
E-mail: <hhayashi@shi.heart.or.jp>